

「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ 設計二課 矢田 康久

1. はじめに

私は、「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加することにより、ボランティア活動と被災地調査活動という貴重な経験をさせて頂きました。この経験を今後の東日本大震災への支援や高知県内の地域防災に活かし、継続して活動を続けていくことが高知応援隊に参加したメンバーの一人としての責務だと感じています。

2. ボランティア活動について

(6月17日～6月18日)

6月17日の初日は仙台駅からバスの車窓越しに多賀城市の被災状況を見ながら、七ヶ浜町を訪れました。七ヶ浜町の被災状況は、沿岸部のほとんどの住居が津波で飲み込まれていました。瓦礫と化した住宅地を3人の小学生が歩いているのをバスから見た人も多いと思います。命は元より大事ですが、家が流されて無くしてしまうことは本当に悲しいことです。生命・財産を守ることができる真に安全・安心な町づくりについて日本全体で考えていかなければならないと思います。



津波による被災状況(七ヶ浜町)

その後、日本3景の景勝地である松島のしमानみを眺めながら宿泊先である松島町野外活動センターへと向かいました。松島町は津波による被害がほとんどありませんでした。これに

ついては島々が津波のエネルギーを吸収したものと考えられています。野外活動センターでは翌日の炊き出しの打ち合わせを行い、初日を終わりました。



松島の美しい風景

2日目の6月18日、私は南三陸チームの一員として南三陸町志津川高校へボランティア活動に行きました。その道中に南三陸町の被災状況をバスから確認できました。報道でも大きく取り上げられた防災対策庁舎は、建物の鉄骨部分だけが残り、周囲の土地は地盤沈下の影響で水没していました。



防災対策庁舎周辺の地盤沈下(南三陸町志津川)

ボランティア活動では、土佐赤牛のカレー、高知の野菜スープ、鶏の唐揚げ、ナスのタタキ、フルーツトマトを炊き出しメニューとして避難所の方々に提供しました。私はカレーを担当していたのですが、どのメニューも思っていたよりも時間が掛り大変でした。応援隊メンバーの奮闘の甲斐もあって、昼までには避難所の皆

さんに炊き出しを提供することができました。皆さんから感謝のお言葉を頂くと、応援隊の面々は皆満足そうな良い表情をしていました。



炊き出しの状況

昼からはスポーツ MAX の鈴木さんの指導のもと避難所の方々と体操をしました。館内のほとんどの方に参加して頂き、炊き出しが終わった安堵感もあり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。最後はよさこい踊りです。にわか仕込みの踊り子達でしたが避難所の皆さん、特に子供達は喜んでいました。



よさこいを終えて

今回のボランティア活動を通じて、「宮城県を元気にする」というスローガンに私は、正直尻込みしていました。しかしながら、宮地隊長をはじめとする応援隊に参加した方々には、スローガンに負けない強い気持ちがあり、その行動力と熱意に非常に刺激を受けました。第一のメンバーも右城副隊長、原田チームリーダーのもと一致団結し、良いボランティア活動ができたと思います。今後も何らかの形で継続的な支援を続けて行きたいと思っています。

3. 被災地調査活動について

(6月19日～6月21日)

3日目からは被災地調査を行いました。初日の6月19日は北上川を下り、石巻市～女川町を調査しました。

北上川では津波により、7径間のトラス橋のうち左岸側の2径間が500m程度上流に流されていました。橋台部には落橋防止構造が設置されていたということです。このような落橋を今後防いでいくには、橋梁の形式、橋梁に作用する波の力や流下物の規模等、津波が橋梁に与える荷重の解明が必要になると思います。



津波で落橋し流下したトラス橋(北上川)

石巻市は死者・行方不明者が5,000人以上にのぼり、今回の地震で最も被害が大きかった地区です。石巻漁港では、宮城県に復興支援に来られている高知県土木部の廣末氏と安田氏に被災箇所を案内して頂きました。災害査定でお忙しい中、具体的な被災状況の確認できる資料等を交えたご説明をして頂きました。



津波により破壊し撤去された棧橋(石巻漁港)

石巻市を離れ次に向かったのが女川町です。女川町は南三陸町と同様に行政機関が津波に飲まれ機能しなくなった地区です。宮城県議会の須田議員に現地を案内して頂きました。須田議員は女川町の自宅が津波で流されているにもかかわらず被災時の状況から救援までの経緯、今後の復興計画などについてお話しして頂き、貴重な経験となりました。

女川町の津波高さは15m近くに達しており、その被災状況はどれもが衝撃的で印象に残るものでした。



ビル最上階にまで達する津波の痕跡（女川町）

6月20日は、午前中名取市を調査し、午後からは阿武隈川河口付近を調査しました。名取市では、総務課の桜井様と引地様に名取市閉上と仙台市藤塚を案内して頂きました。名取市閉上では、下の写真の小さな丘に避難した方々の中で、樹木にしがみついた方だけが助かったとお聞きしました。



津波による被災状況（名取市閉上）

今回の調査活動の最後の箇所になりますが、阿武隈川河口付近では護岸やパラペット、擁壁などが津波により流されていました。阿武隈川河口付近には海岸と並行して走る高規格道路：仙台東部道路が供用されており、盛土構造である仙台東部道路が堤防の役割を果たし、被害が抑えられたことが注目されています。仙台東部道路も被災し通行止めの期間がありましたが、他の高規格道路も含め、今回の地震被害の大部分は路面の段差・クラック、ジョイント部の段差であり、比較的短期間で復旧されています。このことは、今後の高知県の道路網や道路構造を計画する段階において、非常に参考になるとおもわれます。



津波により流されたパラペット（阿武隈川河口付近）

4. おわりに

東北太平洋沖地震による東日本大震災は、震度7に上る強震と大津波、火災による2次被害と福島原発の放射能漏れという未曾有の被害を日本にもたらしました。それと同時に、報道でショッキングな映像や多くの悲しいエピソードが伝えられ、人々の心の中に大きな爪痕を残しました。東北の復興の目処は未だに先が見えない状況ではありますが、被災された皆様が希望を持って生活できる環境を早急に整備していく必要があると思います。私は、高知応援隊の一員として、東北の復興を支援していくとともに、この経験を南海地震の防災対策に活かしたいと思っています。

- 以上